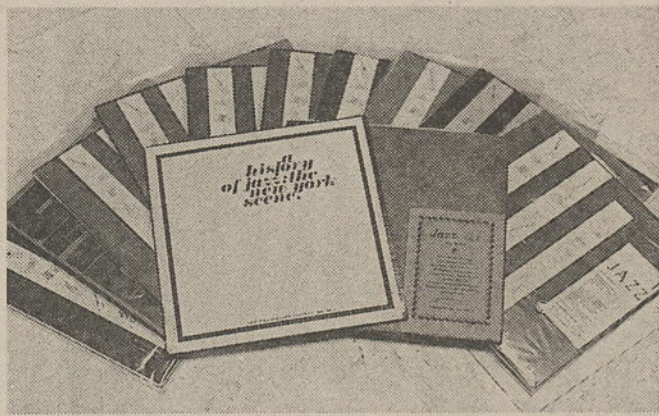


ドクター内田のジャズ盤蔵



ドクター内田が十年がかりで集めた輸入盤十二枚組の「ジャズの歴史」

リズム社の村岡貞さんは、予約注文みだりにしてると本業のレコード屋のオヤジに、手元にあるのはこれくら戻った表情で「このあたりが いなんだが——」。

最近入ったLPですよ。何せ こわこわ手にとってみる船便の上に、入る数が少なく、ジャケットの手ざわりが何ともいえない気分なんだな。せつ時代だったんだから。

“ある時払い”で

輸入盤買い込む

円。二枚の方はまだ珍しいけど三千五百円になってます」。えーっ何ですって、当時の僕の小遣いは週おおよそ千円だ。

それでもせいたくな方で何しろ毎晩居酒屋で飲めたり、もう一つつけ加えると、それが五年後、一宮市民病院の外科に赴任した時の月給が一万円。それだけあれば新婚夫婦が一軒家を借りて暮らした。編」だった。

六一年に完結したこのシリーズは全十二枚、もちろんすななく一枚くらいは持つて帰って入手したのはそれからうよなめながら「渡辺さんのご紹介だけだからお金はいつでもいりです。欲しいだけ選んで行きます。さうだ、これから返事を見て送ってあげましよう。出世払いということですね」。

そのやり方が悪い出しても謝してまますよ。(内田 修)

あ。みん うーん、こりや大変だ。せな欲しく、めて一枚くらいは持つて帰って入手したのはそれからうよなめながら「渡辺さんのご紹介だけだからお金はいつでもいりです。欲しいだけ選んで行きます。さうだ、これから返事を見て送ってあげましよう。出世払いということですね」。

そのやり方が悪い出しても謝してまますよ。(内田 修)